

4段階評価 | 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

学校経営 ビジョン	自立と自律の精神を身に付け、夢の実現のために努力する生徒を育成する。そのために、 ①「個に応じた指導による確かな学力の育成、ICTを活用した分かる授業の充実」 ②「命の大切さを知り、思いやりの心や感謝の心を育成する教育」 ③「体育的行事や放課後の運動などを通じた体力づくり、安全教育と食育指導の充実」 に全職員で取り組み、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。
--------------	---

項	本年度の重点目標と目標達成のための手段	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
			項目	総合	
知育	1 ミニ授業やテスト対策への時間の工夫。	① ミニ授業（朝自習）を計画的に行う。	3. 8	3. 2	1 について ミニ授業（朝自習）については、各教科担任が創意工夫を加えながら、年間を通して充実した取組を行うことができた。第4回校内テスト前には、「第2回 Step Up Weeks」をミニ授業の時間に特設し、テスト対策を充実させ学力向上を目指す取組を行った。 2 について 今年度3回行われた校内テストの平均点が70点以上の生徒の割合は48.5%で、目標を大きく下回る結果であった。しかし、第3回校内テストに向けて、「第1回 Step Up Weeks」を併りの会前に特設し、全教科で共通実践したテストの対策により、子供たちに自信をもたせることができた。今後も、テスト結果の分析及び授業改善を、継続的な取組として充実させていく必要がある。 3 について デジタル教科書やICT機器を活用した授業への積極的参加に対する生徒の自己評価は全体が3.3で、特に1年生が3.4と高かった。教員のICT活用指導力の向上として、ICTスキルの向上を目指すとともに、子供たちの活用をコーディネートできる指導力を身に付けるための更なる取組を推進していきたい。 4 について 個に応じた授業や指導については、日々課題の実施や昼休み・放課後等を活用した個別指導を充実させることができた。家庭学習の充実に関する自己評価は、生徒2.9、保護者2.7、教員2.9とやや低い結果であった。子供たちに対する家庭学習の進め方の指導や、保護者に対する家庭学習の重要性についての啓発等、学校と家庭との連携をさらに充実させていく必要がある。
		② テスト対策の時間を有効に活用し、学力アップに取り組む。	3. 6		
	2 基礎・基本の定着と分かる授業の構築。	③ 校内テスト70点以上の生徒の割合70%を達成する。	2. 6		
		④ テスト結果を分析し、改善するための工夫をする。	3. 3		
3 ICT機器（特にタブレット）の効果的活用と実践。	⑤ ICT機器（特にタブレット）やデジタル教科書の効果的な活用と実践を行う。	⑥ 個に応じた授業や指導を行う。	3. 3		
		⑦ 自学ノート等に、課題を適時与えながら、家庭学習の充実を図る。	2. 9		
徳育	1 道徳の時間等を活用した心の教育の充実。	① 「考え、議論する道徳」の授業を実践して、共によりよく生きようとする姿勢を養う。	3. 0	3. 3	1 について 昨年度まで小学校と連携を図りながら取り組んできた「考え、議論する道徳」の研究の成果を、本年度の授業でも生かすことができた。「思いやりのある言葉遣いができ、あいさつは自分から率先してできたか」の問いに対する自己評価は、生徒、保護者ともに3.3で、生徒の自己評価は昨年度より0.3ポイント向上していた。 2 について 本年度も、生徒作品の各種コンクールや新聞への投稿等を、積極的に継続することができた。県レベルのコンクールで入賞した生徒の人数も例年より多く、いろいろな場面で称賛することができた。 3 について 「毎日の清掃や高妻神社清掃等に積極的に取り組んだか」の問いに対する生徒の自己評価は3.1で、積極的な取組が見られた。今後も高妻神社清掃や国道沿いの花壇の苗植え等の地域でのボランティア活動の充実を図り、「ふるさと愛」の育成につなげていきたい。 4 について 生徒会活動（学校行事等）への参加に対する自己評価は、生徒3.5、保護者3.6で非常に高い結果であった。生徒会活動等でも、生徒たちが自ら考え、行動している様子が見られることも多かった。
		② 思いやりのある言葉遣いで接したり、率先してあいさつや声かけを行ったりすることができるような思いやりの心と感謝の心を育成する。	3. 3		
	2 言語による創作を通じた豊かな心の育成。	③ 作文や詩、俳句、短歌の作成及び各種コンクールや新聞への投稿等を積極的に継続することで、自己肯定感を高めると共に、豊かな心を育成する。	3. 5		
	3 地域との連携を図ったボランティア活動の充実。	④ 清掃や行事の準備・片付け、高妻神社の清掃などへの積極的な取組を促し、「ふるさと愛」を育成する。	3. 8		
4 自立と自律を意識した生徒会活動の活性化。	⑤ 生徒たちが「自ら考え、自ら判断し、自ら決定し、自ら行動する」取組の支援を行い、学校行事や生徒会行事、生徒会活動等の活性化を図る。	3. 0			
体育	1 新体力テスト結果の把握と肥満度ゼロ。	① 体力向上プランに基づく授業・部活動を通して、体力向上を図り、新体力テストのD段階の割合10%以下、E段階の割合0%を目指す。	3. 1	3. 2	1 について 体力向上に対する生徒・保護者の自己評価は、ともに3.4と高い結果であった。しかし、新体力テストにおけるE段階の割合が4.5%、D段階の割合は18%で、目標を達成することができなかった。また、肥満度ゼロまであと5名であるが、今年度の4月時より2名減となってきた。今後も自己の健康に対する指導や個別のアプローチを継続させていきたい。 2 について 今年度も給食残食ゼロは達成することができている。しかし、むし歯の治療率は2月8日現在55%で、4名の生徒がまだ治療を完了できていない状況である。朝食欠食については、毎日の生徒はいないが、時々という生徒が1名いる。家庭と連携を図りながら継続して指導していく必要がある。 3 について 年度始めに、全校生徒に対して立腰の功徳や基本姿勢、立腰姿勢の注意点等の指導を行うことができた。様々な場面において、継続した指導に努めていきたい。 4 について 92%の生徒が、部活動や校外のクラブ等に所属してスポーツに親しんでおり、目標を達成することができた。
		② 自己の健康維持に対する関心を高めさせる指導を行い、肥満度ゼロを目指す。	3. 2		
	2 むし歯の治療率100%、給食残食ゼロ、朝食欠食ゼロ。	③ 家庭と連携しながら、健康や食への意識高揚を図り、むし歯の治療率100%、給食残食ゼロ、朝食欠食ゼロを目指す。	3. 2		
	3 立腰による精神バランス感覚の向上。	④ 立腰の意義の理解を図り、様々な場面での実践を推進する。	3. 1		
4 部活動等を通じたスポーツに親しむ姿勢の育成。	⑤ 部活動等を通して、スポーツに親しんでいる生徒の割合90%以上を目指す。	3. 5			
食育	1 日々の安全指導の充実と命を大切にする教育の推進。	① 安全点検を計画的に実施し、危険箇所を常に確認し、生徒・教職員共に常在危機の意識を高める。	3. 4	3. 7	1 について 毎月の1日を校内安全点検日とし、危険箇所や要修繕箇所の確認と改善に努めている。いのちを大切にする教育の推進については、7月・12月の「いのち」や「いじめ」をテーマとした道徳の授業実践に加えて、「SOSの出し方に関する教育」を実施するなど、充実した取組ができた。 2 について 年2回の弁当の日を計画どおり実施し、内容にも工夫改善を図ることができた。弁当の日への取組に対する生徒の自己評価は3.4と高評価であり、生徒たちの食への関心も高いことが確認できた。 3 について 地域コーディネーターや保護者と連携・協働した小中合同での米作りを実施することができた。「食への感謝の気持ちを持つことができたか」の問いに対する生徒の自己評価も3.7と高評価であり、目標を達成することができた。と考える。 4 について 「避難訓練に真剣な態度で取り組んだか」に対する生徒の自己評価は3.5と高かった。日常における継続した指導に努めていきたい。
		② いのちを大切にする教育を推進し、生きることの意義や尊さ、すばらしさを育成する。	3. 7		
	2 年2回の弁当の日の充実と食育の推進。	③ 弁当の日を積極的に推進し、食育への関心を高める。	3. 7		
	3 田植え・稲刈り体験による「食」への感謝の気持ちの育成。	④ 地域の方と連携した「収穫」の喜びを味わわせる取組を行い、食への感謝の気持ちを育む。	3. 7		
4 防災教育の充実。	⑤ 年3回の避難訓練及び日常における指導等を通して、生徒・職員の生命の安全・保護に努める。	3. 9			
その他	1 家庭・地域との連携・協働。	① 学校ホームページ、学校だより、学級通信、各係からの連絡、新聞への投稿等を通して、家庭や地域への周知、理解を深めるための発信を行う。	3. 3	3. 3	1 について 主に学校だより、学級通信、学校メール、ほけんだより、新聞への投稿等を通して、家庭や地域への周知、理解を深めるための発信を継続的に行うことができた。作文や詩、俳句、短歌等の生徒作品が、4月から現在（2月8日）までの新聞に29回掲載された。保護者との連携については、「参観日や学校行事などに積極的に参加しましたか」の問いに対する保護者の自己評価は3.4と高く、学校行事やPTA活動等への保護者の積極的な協力がとても印象的であった。地域人材の活用については、「地域と連携した行事（田植え・収穫、神社清掃など）に積極的に取り組んだか」の問いに対する生徒の自己評価が3.8と非常に高く、教育的効果も大きく期待できるので、今後も地域人材の積極的活用を推進していきたい。 2 について 働き方改革については、一定のレベルで推進できていると考える。今後も家庭や地域、関係機関との連携強化を構築していきたい。
		② PTA活動や参観日を通して、保護者との信頼関係を築く。	3. 3		
		③ 家庭訪問や教育相談を適時行い、家庭との連携を深める。	3. 2		
		④ 授業や行事などで地域人材を生かした教育を行う。	3. 4		
	2 働き方改革の推進。	⑤ 勤務時間を自己管理して、長時間勤務の是正と教育活動の質の向上を図る。	3. 3		

次年度の方向性についての校長所見	【知育】 学力向上に係る新しい対策として、校内テストにおいて情報量の多い問題を各教科最低1問は取り入れるようにした。その際、事前学習として同様の問題に取り組み、テストで確認するという流れをとった。また、5教科を中心とした取組として、校内テスト前に「Step Up Weeks」を実施し、学年に応じた目標の達成と子供たちの意欲の喚起を図ることができた。次年度以降も工夫・改善を図りながら継続させたい。 【徳育】 「道徳の授業にしっかり取り組み、そのことが自分の生活に役立っているか」に対する生徒の自己評価は3.2で、「お子さんは、素直で思いやりのある子に育っていると思いますか」に対する保護者の自己評価が3.4と高い結果が得られた。次年度も道徳の授業や学校行事等を生かした心の教育の充実を努めていきたい。 【体育】 本年度も、給食は好き嫌いせずに残さず食べ、残食ゼロを年間通して達成することができた。また、肥満傾向の生徒の割合は減ってきている。体力向上に対する生徒や保護者の自己評価の結果も高評価であった。しかし、むし歯の治療率や自力登校には課題が残った。次年度は、家庭と連携した取組をさらに充実させていく必要がある。 【食育】 食育に関する本年度の重点目標と目標達成のための手段に対する生徒や保護者、職員の自己評価は全て高評価で、総合評価も昨年度より0.4ポイント向上していた。特に、重点項目として本年度新たに加えた「防災教育の充実」に対する自己評価が最も高く、指導等の充実が期待以上に図られたものと考えられる。次年度も、生徒・教職員共に常在危機の意識の高揚を図っていけるように努めていきたい。 【その他】 保護者の自己評価から、学校への協力に対する保護者の意識の高いことが分かった。しかし、「お子さんは、学校からの連絡文書や通信を見せましたか」に対する保護者の自己評価は2.8で、昨年度より0.3ポイント下がっていた。次年度は、子供たちへの意識の高揚を図っていくための手立てを講じていくとともに、学校メールの有効活用を図っていくことで、この課題の解決に努めていきたい。
------------------	---